

第6学年 道徳学習指導案

日 時 平成24年11月14日(水) 4校時
 児 童 6年A組 男子17名 女子17名 計34名
 指導者 一関市立山目小学校 寿時 富直

- 1 主題名 自他の権利と義務 【4－(1)】
- 2 資料名 「お客様」(文部科学省『小学校道徳 読み物資料集』)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3章道徳の第5学年及び第6学年の内容の4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(1)に「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。」とある。これは低学年の(1)「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切に使う。」中学年の(1)「約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。」を発展させたものであり、中学校の(1)「法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。」(2)「公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。」へ発展していくものである。

現在の子どもを取り巻く状況のひとつに、社会規範が大きく揺らいでいることが挙げられる。そのような中、社会生活を送る上で法やきまり(ルール)の意義を理解し、遵法の精神をもって過ごしていくことはとても大切なことである。また、基本的なモラルなどの倫理観をもって生活することもよりよい生き方のためには必要なことである。それとともに他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張するとともに、自分に課せられた義務をしっかりと果たすことも、よりよい社会生活を送る上では、重要になってくる。

法やきまり(ルール)、そしてマナーなどの社会規範を意識して生活することは、自他の権利を守ることににつながる。いずれも「他者とのかかわり」を意識したもので、極めて大事にしていきたい内容である。

高学年の児童は公德心の大切さについて、知識としては理解している。しかし、「自分だけなら・・・」「他の人もやっているから・・・」「少しだけなら・・・」「今回だけなら・・・」といったように自己規制がうまくできなかつたり、友達の目を意識してわざと間違った行動を選んだりする場合もある。そこで、法やきまり(ルール)の意義を理解したり、マナーなどの社会規範や権利、義務について深く考えたりすることはこの時期において大切なことであると考えられる。

(2) 児童について

学級の児童は明るく素直な態度で学校生活を送っている。学校のリーダーとなった今年度、きまり(ルール)について昨年度以上に意識しながら生活している場面が多く見られるようになってきた。また、きまり(ルール)やマナーの存在そのものや守ることに対し大きく反発する児童はいない。

以下は、本学級の児童の「きまり(ルール)やマナーの存在や守ることの意義」に対するアンケートの結果の一部である。

質問事項	回答	%	回答	%
一般社会において、ルールはなぜ守らなければならないと思いますか。	事故や事件にあわないため。(安全に過ごすため。)	43	生活しやすいように。	3
	他人に迷惑をかけないため。	15	周りの目があるから。	3
	周りも困るし、自分も困るから。	6	みんなと違う行動をしていると恥ずかしいから。	3
	社会を成り立たせるため。	6	不公平になるから。	3
	社会の中で暮らしていけないから。	6	わからない。	9
あなたは今、いろいろなルールを守っていますか。	守っている。	12	守っている時と守っていない時がある。	38
	ほとんど守っている。	38	守っていない。	12
あなたがルールを守るとき、最初に思いつくことは何ですか。	ルールは守るものだから。	58	けがをしないため。	3
	親や先生など、周りの大人に怒られるから。	18	命に関わることだから。	3
	みんなで決めたことだから。	15	一人だけ守らないのは恥ずかしいから。	3
マナーと聞いて、どんなマナーが浮かびますか。	食事のマナー	52	運転のマナー	3
	他人の家でのマナー	9	ボイ捨て	3
	携帯電話	6	作法	3
	公共の乗り物	6	わからない。	6
	公共の施設	6	信号無視	3
	喫煙マナー	3		

なぜ、マナーを守らなければならないと思いますか。	周りの人に迷惑をかけないため。	25	社会で通用しないから。	3
	他人に不快な思いをさせないため。	12	常識だから。	3
	社会が成り立たないから。	6	お互いが気持ちよくなるため。	3
	事件や事故にあわないため。	6	わからない。	24
	恥をかくから。	6	きまりだから。	6
	悪い目で見られるから。	6		

アンケートの結果や普段の生活の様子から学級全体を見てみると、きまり（ルール）に対し大きく反発する姿は見られないものの「きまりだから」「きまりは守らなければならないものだから」と形式的にとらえたり、きまり（ルール）を守る理由に「周りの大人に怒られるから」ということを挙げたりする児童もいる。また、学校を離れると「見られている」という緊張感が薄れ、きまり（ルール）に対する意識が低下するということを述べる児童も少なくない。マナーについても、「大切にしなければならないもの」というとらえがあるものの、日常生活において決して意識が高いというわけではなく、自己中心的な行動をとってしまう姿も多く見られる。また、日常の生活を見てみると、落ちているごみを進んで拾わなかったり、学級みんなで使う文房具や清掃用具を無造作に扱ったりする場面も目にする。いずれも、他者にまで思いを寄せることができない児童が多いことによるものである。

今学期に入り、一関地方陸上競技大会や校内文化祭、校外学習等の大きな行事を通し、観戦・鑑賞、見学についてのきまり（ルール）やマナーについて考える機会があった。また、児童会月目標の廊下歩行についてなぜ守ることが必要かと考えたり、学級の給食時間の過ごし方を見直したりすることを、学級活動を中心に行ってきた。その中できまり（ルール）やマナーについて考えてきた。体育の学習においては、ゲームのルールを考える経験もしている。権利、義務については社会科の「歴史に関する学習」において扱っており、段階的に積み重ねてきている状況である。ただし、現段階では「政治の働きに関する学習」の中で扱うような権利、義務を取り立てた重点的な学習をしているわけではない。つまり、これまでの生活の中で、自他の権利や義務について深く考えたり、よりよい生活を送るためには権利を尊重し、義務を遂行することが大切であるということを考えたりする機会があまりなかったといえる。

このような児童の実態に対して、本校高学年の重点指導項目である社会規範や権利、義務といった内容において、その意味や自己とのかかわりについて、考えを深化させたいと考える。また、重点的に指導したい内容であるため、特に権利、義務に関わる主題について複数時間での扱いとした。

「きまり（ルール）やマナーは必要なこと」「きまり（ルール）やマナーは守って当然」ととらえている児童に対しても、本主題を通して、きまり（ルール）やマナーの意義を見つめ直す機会としたい。さらには、きまり（ルール）やマナーなどの社会規範は自他の権利を守ることにつながることに気付かせていきたい。そして、「互いが気持ちよく生活するために必要な公德心」についても考えを深めさせたいと考える。

(3) 資料について

好きなキャラクターショーを見たくて念願の遊園地に連れてきてもらった主人公。ショーの始まりを待つ間に、どんどん混み合ってくる。ショーの係の人がたくさんの注意を大きな声で何回も呼びかける。その呼びかけを主人公は快く思っていない。ショーが始まると主人公の前の人が子どもを肩車し、主人公はショーが見えなくなる。肩車をした人は係の人に注意を受け、渋々子どもを降ろすが、「納得できないものを押しつけるのはおかしい。わたしはお金を払っているお客様だ。」と抗議する。これに対し、係の人は「申しわけございません。」と頭を下げる。この状況を見て、主人公はいろいろなことを考えるのである。

お金を払っているお客様の権利や義務は何なのかという視点から、他者と互いに気持ちよく生活するために公德心を大切に、人としてよりよく生きることについて考えを深めることができる資料である。

この資料において、主人公の気持ちが晴れないまま、これまで起こったことを振り返る場面を通して、マナーを守るということは自他の権利を尊重することにつながるという感じ方、考え方を広げ、深めさせるようにしたい。そして、「権利、義務」や「ルール、マナー」は、他者とのかかわりから存在することに気づかせていきたい。

この資料の設定場面は、子どもたちにとってイメージしやすく、自分の身に起こることとしてとらえやすいと考える。そこで、本時では、児童に自分がその場にいたら、どんなことを考えるのかということについても考えさせたい。

(4) 主題について

主題：自他の権利と義務【4－(1)】

	資料	ねらい
第一次	「ピアノの音が……」 (東京書籍小学校道徳6)	他人の権利を尊重するとともに自分の権利を正しく主張する心情を養う。
第二次 (本時)	「お客様」 (文部科学省『小学校道徳 読み物資料集』)	自他の権利を尊重し、自分に課せられた義務を果たしながら、公德心をもって社会生活上のマナーを大切にする態度を養う。

《第一次と第二次のつながりについて》

「権利」や「義務」については、児童にとって日常生活の場面においてイメージしにくい内容であり、深く考える機会が多くはなかった。そこで、段階を踏んで「権利」「義務」について考えさせたいと考えた。また、重点指導に関わる内容であるため、繰り返し取り上げ、複数時間で扱うこととした。

1次の学習においては、副読本を使用し、まずは「権利」を中心に考えさせる。この資料の中には「義務」という言葉は出てこない。「義務」を想起させる登場人物のせりふがあるものの、この時間の学習においてはあえて、必要以上に「義務」を追求しないこととする。もちろん児童の中から出てきたときは、取り上げて全体の中で確認していく。まずは本文中にある「権利」という言葉に着目し、「権利」を尊重したり、「権利」を正しく主張したりする心情を中心に学習する。

2次の学習においては、文部科学省の読み物資料を使用し、さらに「権利」「義務」について考える。この学習をする時期は、1次の頃に比べ他教科でも「権利」や「義務」について目にする機会が増えてきておりイメージをもちやすいと考える。「権利」だけでなく「義務」についても目を向けた話し合いをさせたい。

二つの資料を通して、「社会生活では、他者との関わりにおいて、互いが気持ちよく生活するために社会規範が必要である」ということをおさえるとともに、「社会規範は自他の権利を守ることにつながる」ということに少しでも気付かせていきたい。そして「権利」「義務」を考えることを通して公德に対する思いや考えを広げ深めさせていきたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

自他の権利を尊重し、自分に課せられた義務を果たしながら、公德心をもって社会生活上のマナーを大切にする態度を養う。

(2) 展開の概要

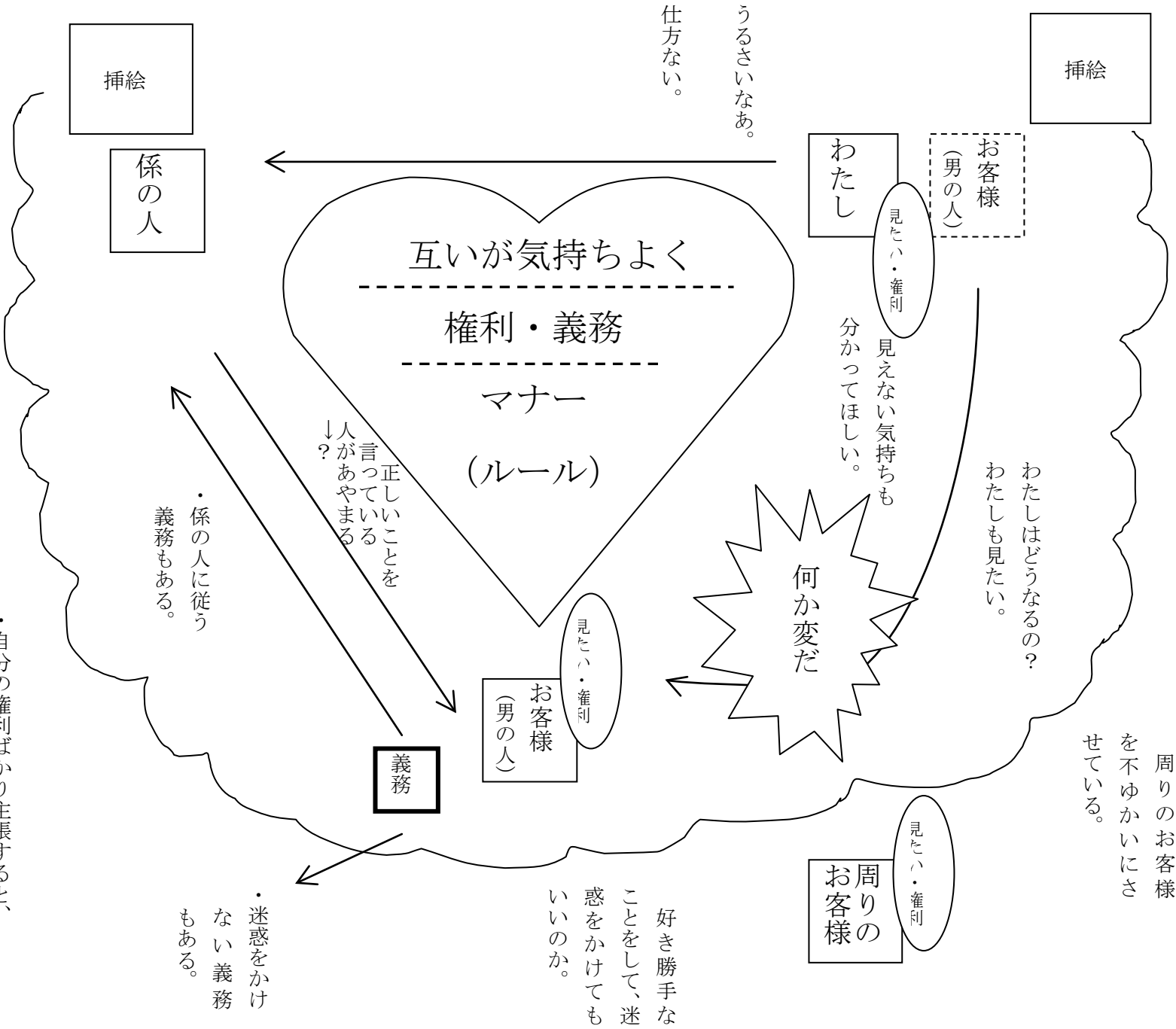
	学習活動と主な発問	予想される児童の反応や心の動き	指導上の留意点
導入 3分	1 事前に書いていた「権利」「義務」についてのイメージの結果をみんなで確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・堅苦しい。 ・面倒くさい。 ・大切なもの。 ・権利や義務は必要だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に児童がイメージしたものを確認した後、「権利」「義務」というキーワードを黒板に掲示する。
展開 40分	2 資料を読み、資料の内容について話し合う。 ○「わたし」が、注意ばかりする係の人を快く思っていなかったのはなぜですか。 ○「何か、変だ」と思ったのはどんなことを考えたからですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「見えないのだから、仕方ないのでは。」と考えたから。 ・注意ばかりされて楽しい気持ちがだんだんなくなったから。 ・こっちの見えない気持ちも分かってほしかったから。 ・いくら相手がおお客様だからといって正しいことを言っている人が謝っている。 ・肩車で見えなくなっている私のことはどうなるのだろう。 ・せっかくのショーなのに、男の人の言葉や行動は周りを不愉快にさせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」自身が不快に思っている気持ちと同時に周りの人たちの不満げな様子も確認する。 ・出された考えを整理、分類して板書するようにする。 ・矛盾した謝罪や自分の権利の主張ばかりで他者の権利を考えていないことを取り上げるようにする。

<p>展開</p>	<p>◎気持ちが晴れないまま会場を後にした「わたし」は、どんなことを考えていたでしょうか。</p> <p>○この場に自分がいたら、どんなことを考えますか。</p> <p>3 自分の生活に価値づける。</p> <p>○これからどんな場面で他の人の権利を考えて、ルールやマナーを守っていききたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • お金を払っているからといって好き勝手なことをして周りに迷惑をかけていいのか。 • わたしも見たかったのに、ショーを見られなくて残念だ。 • 自分の権利ばかり主張することで周りの人の権利を奪うこともあるのだ。 • 互いが気持ちよくなるには、自分だけでなく周りの人の権利も考えなくてはならない。 • この場合のお客の義務は周りに迷惑をかけないということや係の人の指示に従うということではないか。 • 別の方法で見ようとするかもしれない。それは自他の権利を大切にしているかな。 • 自分の権利ばかり主張すると、周りの雰囲気が悪くなる。 • お金を払っているお客は周りの権利を考えながらも、どこまで権利を主張できるのだろう。 • 安全に歩行するという権利を考え、廊下の右側を歩行するというルールを守っていききたい。 • 病院内で静かに過ごしたいという権利を考え、騒がないというマナーを守っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • ワークシートを用い、自分自身の考えをまとめさせる。 • できるだけ、権利や義務を取り上げた話し合いができるようにする。 • マナーを守るということは自他の権利を尊重することにつながるという考え方を取り上げる。 • 見えなくて困っている立場の人の気持ちも理解させ、その上で必要なことを考えさせる。 • 「権利、義務」や「ルール、マナー」は、他者とのかわりから存在することに気づかせる。 • できるだけ権利とルールやマナーを結びつけて考えるように促す。 • ルールやマナーがあるから安心・安全な生活を送られていることを全体で確認する。
<p>終末 2分</p>	<p>4 『心のノート』にある文章を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分のことだけでなく、周りの人のことも考えるということは、大事なんだなあと改めて思った。 	<ul style="list-style-type: none"> • 『心のノート』にある「権利があり義務がある」という文章を紹介して授業を終える。

(3) 評価

自他の権利を尊重し、自分に課せられた義務を果たしながら、社会生活上、ルールやマナーを守ることの大切さについて考えている。

お客様



うるさいなあ。
仕方ない。

・見たかったのに残念だ。
・うるさいと思って悪かった。
・このようなことにならないための注意だったのだ。

・自分の権利ばかり主張すると、周りの人の権利をうぼう。
・周りの人の権利も考えなくてはいけない。
・お客様でも果たさなくてはいけない義務もある。

5 資料分析

ね ら い：自他の権利を尊重し、自分に課せられた義務を果たしながら、公德心をもって社会生活上のマナーを大切にする態度を養う。

授業の意図：自己の権利を主張するだけでは、公德を基準とした互いに気持ちのよい社会にはならないことに気付かせ、他者の権利を尊重し義務を果たしながら、主体的にマナーやきまりを大切にする態度を養う。

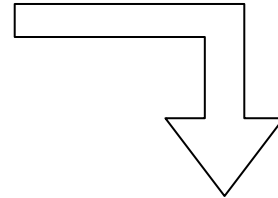
中心発問：気持ちが晴れないまま会場を後にしたわたしは、どんな
(③) ことを考えていたでしょうか。

場 面：気持ちが晴れないまま会場を後にし、それまでのことを振り返る「わたし」

意 図：公德心をもってマナーやきまりを大切にし、自他の権利を尊重し自分に課せられた義務を果たしていかないと気持ちのよい社会生活は送れないことに気付かせる。

価値理解

他者理解



発問④：見えないというこの状況に自分がいたら、どんなことを考えますか。

意 図：資料の中の場面に自分を置いて、自己の生き方（生活や体験）と向き合わせる。

価値理解

他者理解

自己理解

マナーや注意を息苦しく感じる状況や、その時の思いを考えさせる。

自分の権利しか考えない人のために、係の人は何度も注意していたことに気付かせ、マナーやきまりを進んで大切にする気持ちについて考えさせる。

発問①：わたしが、注意ばかりする係の人をこころよく思っていなかったのはなぜですか。

場 面：ショーが始まる前の、係の人の大きな声で繰り返される注意を聞いているときの「わたし」

意 図：注意を快く思わなかったり、マナーを意識できなかったりする人間の弱い気持ちについて考えさせる。

人間理解

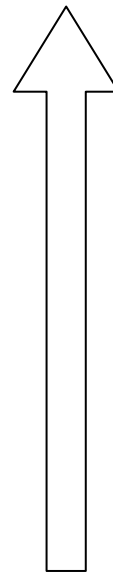
発問②：「何か、変だ」と思ったのはどんなことを考えたからですか。

場 面：注意をした係の人が、お客様に謝っているのを見た「わたし」

意 図：公德についての多様な感じ方、考え方に触れ、自分の感じ方、考え方を広げ深めさせる。

価値理解

他者理解



6 本時の道徳的価値を育む主な道徳教育

《道徳教育の重点目標》

- 相手のことを思いやり、互いに協力し合って、進んで仕事ができる子どもを育てる。
- よく考え、自分の力で判断し、**約束やきまりを守って行動できる**子どもを育てる。
- 生命を尊重し、自然環境や社会福祉などに目を向け、これらを大切に**する**子どもを育てる。

＜高学年の重点項目＞

- 相手の立場に立ち、互いに理解し合い信頼し合って向上すること
- **公德心**をもち、公平公正な心で正義の実現に努めること
- 社会に奉仕する喜びを知り、公共のために努力しようとする**こと**
- 生命の尊厳を自覚し、人間の力を超えたものへの畏敬の念をもつ**こと**

「ルール・マナー（モラル）」「権利・義務」に関わっての主な学習や活動（2・3学期）				
月	道徳の時間	各教科等の学習	学級活動、日常の生活	体験的活動、（学校）行事等
8、9	『ピアノの音が…』(東京書籍)【4- (1)、主題：自他の権利】	社会『近代国家への歩み』(権利・義務)	児童会月目標「廊下歩行を守ろう」について(ルール)	地域清掃 市陸上競技会(観戦)
10	情報モラル【1- (1)】	体育『ボール運動(ベースボール型)』(ルール)	給食時間のルール、マナーについて	文化祭(鑑賞) 平泉校外学習(見学)
11	『お客様』(文部科学省読み物資料)【4- (1)、主題：自他の権利と義務】	社会『戦争から平和へ』(権利・義務)		
12			図書室の本の借り方について(ルール)	民区行事
1		社会『暮らしの中の政治』(権利・義務)	冬休みの暮らしについて(ルール)	
2	『空きかんのゆくえ』(東京書籍)【4- (1)、主題：公德を守る心】	体育『ボール運動(ゴール型)』(ルール)		6年生を送る会(鑑賞)
3			春休みの暮らしについて(ルール)	

[家庭、地域との連携・協力]

- ・ 授業参観、懇談会、個別面談、通信等において家庭と連携をとる。
- ・ 地域行事・活動への積極的な参加を促す。